

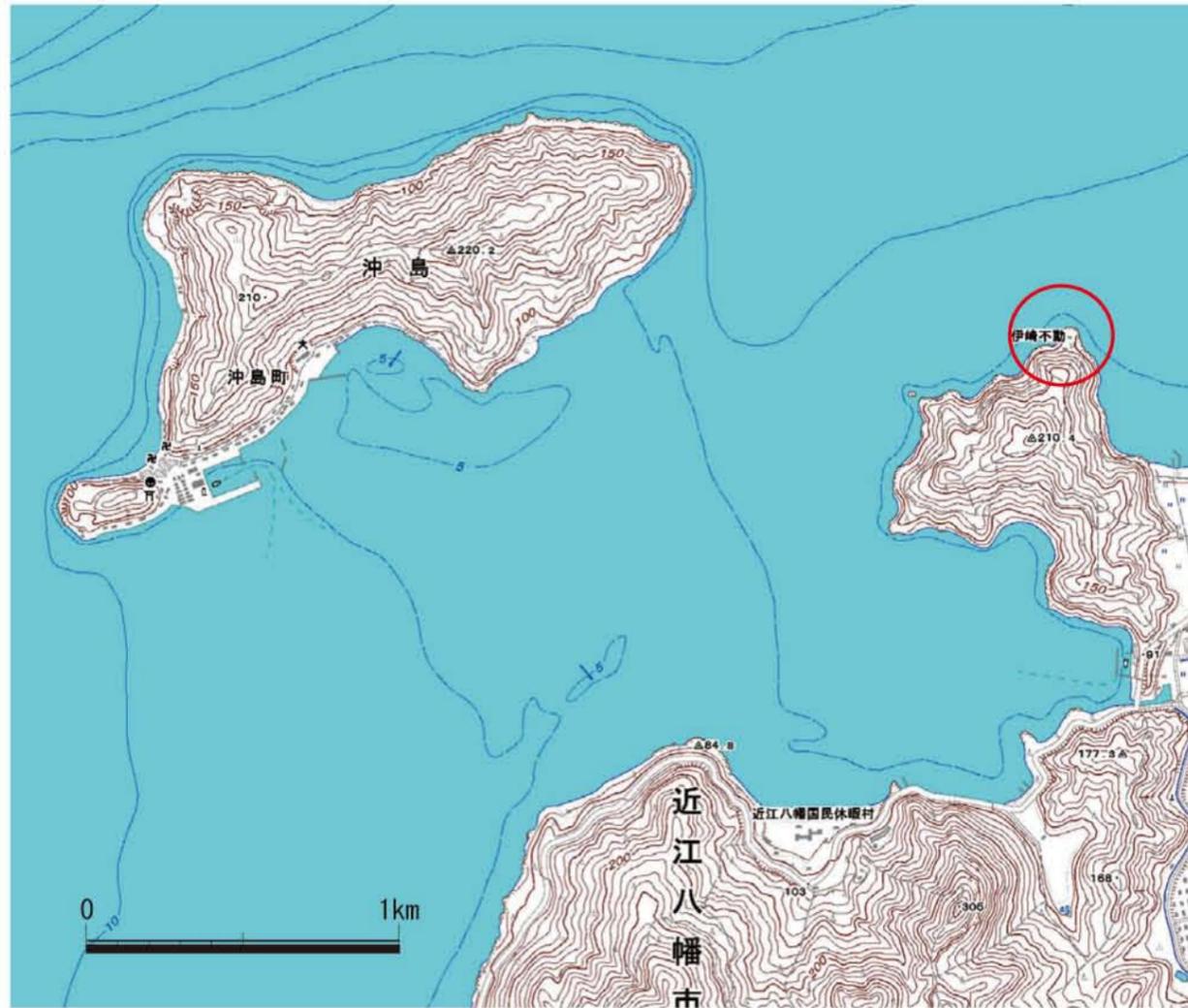
周辺の  
みどころ

伊崎寺周辺には、長命寺や大嶋・奥津島神社がみられる。

大嶋・奥津島神社は奥島山の南山麓に位置する。古くは大嶋・奥津島の二社が別所に祀られていたが、のち現在地に合祀されたと伝えられる。重要文化財の黒漆鞍・菊花螺鈿鞍や大嶋・奥津島神社文書など、貴重な文化財を現在に伝えている。



大嶋・奥津島神社



[アクセス]

- JR近江八幡駅から近江鉄道バスに乗り、「堀切港」下車後、徒歩40分

[もっと詳しく知りたいひとへの案内]  
(関連文献/関連施設)

- 大津市歴史博物館「比叡山延暦寺里坊等所在彫刻調査目録(追加1 伊崎寺)」(『研究紀要』11) 平成16年

# 伊崎寺と竿飛び

近江八幡市白王町



伊崎寺本堂

伊崎寺は近江八幡市の北端、琵琶湖岸に面した伊崎山に立地する天台修験の寺院で、伊崎不動の名で知られている。比叡山の回峰行の開祖とされる相応和尚(831~918)の創建と伝える。本尊の不動明王像は相応が葛川の滝で修行中に感得したと伝えられ、県内でも屈指の由緒ある不動明王像である。毎年8月1日におこなわれる竿飛びの行事も有名で、琵琶湖に突き出した竿の先端から禪姿の行者が7m下の湖面に飛び込む。かつての天台修験の修行の一つであった捨身の名残りと考えられる。

水と信仰が分かちがたく結びついた滋賀県特有の水の宝である。





伊崎寺山門



不動明王坐像（重要文化財）



湖に突き出した竿

## 伊崎寺と竿飛び

所在地 近江八幡市白王町

### 伊崎寺の由緒

伊崎寺に伝わる伊崎寺縁起（天正13年以前の成立）によると、当寺の開基はえんのぎょうじや「役行者」と伝えられる。その後、天台宗のかいほうぎょう回峰行を完成させた相応が入山し、天台修験の道場となったようである。当寺を結願所とする回峰行は二通りであった。一つは洛又峰とよばれ、香仙寺（不明）から長命寺、阿弥陀寺を経由して伊崎寺に至った。もう一つは法華峰とよばれ、香仙寺から願成就寺（近江八幡市）、長命寺、阿弥陀寺を経由して伊崎寺に至った。

かつては、船以外で容易に参詣することができず、現在も湖岸に船着場があり、山門は琵琶湖に面して立っている。

### 伊崎寺の本尊

伊崎寺の秘仏本尊である不動明王像は、相応の制作と伝える。相応は修行のなかで不動明王を感得することがしばしばあり、伊崎寺の他に、感得の不動明王像を本尊とする葛川明王院や無動寺（いずれも大津市）を建立した。本像は、像高が85.4cm、頭と体幹部をヒノキの一材から彫り出した一木造で、肩から腰脇に至る左右の体側部をそれぞれ矧ぎ付ける。不動像の基本である「弘法大師様」（空海が中国より請来した不動明王像）の図像の上に、非常に大きく見開く目、上出する下歯列と下牙、6カ所で括る弁髪などの特徴を加えるもので、他に類例のない珍しい像容である。奥行きが少ない体軀、彫りの浅い衣文などにより、制作時期は平安時代中期にあたる10世紀後半頃と判断される。相応が活躍した時代よりも時代はやや下るが、相応が感得した独特の図像を忠実に伝える貴重な作と考えられ、平成18年に、重要文化財に指定された。

本尊に付随する二童子像（制多迦・衿羯羅童

子立像）は本尊よりも時代が下る平安時代後期の制作で、穏やかで優美な表現が特色である。

### 竿飛び

伊崎寺の年中行事として知られているのが、毎年8月1日におこなわれる竿飛びである。琵琶湖に面した断崖絶壁の上に建てられた竿飛堂には、長さ13mの太い竿が琵琶湖上に突き出ているが、この竿の先端から7m下の湖面に行者が飛び込む。竿飛びの起源は、天台修験の修行の一つであった捨身とされるが、他にも湖上を往来する船に空鉢をとばして灯明料などを徴収したことの名残ともいわれる。内湖が干拓される以前、竿飛びの日には近郷から田舟に乗って見物人が訪れ、酒宴がくりひろげられて大いに賑わった。竿飛びは、現在も厄除け祈願の行事として行者や信者、さらには一般参加者も混じっておこなわれている。



伊崎寺から琵琶湖をのぞむ